

## 「何事にも全力で」

東京都 高等学校（地理歴史）教諭（120期 史学科）

「教職1本に絞ろうか、就職活動と並行しようか…」大学3年生の頃、倍率の高さや、周りに教職辞退者が多かったことなどが理由で、私はこのことについて日々悩んでいました。皆さんの中には、同じような悩みを抱えている人もいるかもしれません。特に社会科(地理歴史科・公民科)の場合、倍率は10倍を超えることも多々あります。数字だけを見てしまうとどうしても不安になりますが、そんな時は「絶対に教師になりたい」という気持ちと、「絶対に1発で合格してやる」という気持ちを思い返すようにしました。まだ志望動機などが固まっていない人は、筆記試験の勉強を進めながら「なぜ教師になりたいのか」、「教師になって何がしたいのか」などを考えて下さい。教員採用試験において、これらは自身の「支え」となり、試験勉強の「原動力」となります。私の場合、大学2年次の教職基礎講習会や3年次の教職総合ゼミを通して、教職とは何かという基本から、実際の試験対策まで幅広く学ぶ中で、「なぜ教師になりたいのか」、「教師になって何がしたいのか」ということが見えてきたため、それ以降は迷うことなく教職の勉強に専念することができました。

さて、筆記試験に関して言えば、「点数の差＝勉強時間の差」と私は思います。時間を確保し、集中して効率良く勉強すれば必ず点数は上がります。東京都の1次試験は、教職教養・専門教養・論文の3つですが、3年生の夏休み以降は、まず教職教養を完成させるべく勉強に励みました。過去問分析を行い、参考書を購入して勉強を進めました。私は夏期や春期の講習会に参加していないので、基本的には独学でしたが、参考書を軸とした勉強を行うことで、教育原理・教育心理・教育法規・教育史の全体像を把握でき、どのような問題にも対応する力を身に付けることができました。1月末の模試で教職教養に関しては7割以上の得点を取ることができたので、春休みからは専門教養と論文に専念しました。春休みはアルバイトの日を除き、1日12時間勉強していました。社会科は出題範囲が非常に広いため、どのように勉強を進めればいいのか迷いましたが、「教科書を読んで太字部分をチェックする→読んだ部分と同範囲の問題を解く→間違ったところを教科書で再確認する」という流れを繰り返していました。論文はとにかく書くことに尽きます。私の場合は本番までに20枚程書きました。同じテーマで何度も書き直すことも大切です。また、模試は必ず受けていました。実力を付けるには、問題を数多く解く必要があり、模試はその絶好の機会になります。受験後は復習用のテキストにもなるので大学で実施しているもの以外にも多々受験しました。

このように勉強を進めてきた私ですが、4月に受けた模試の専門教養の点数が1月に受けた模試の点数と一緒だった時、愕然としました。その時支えて下さったのは、山川先生をはじめとする教職支援の先生方です。先生方は個別相談で成績が伸びない理由を探り、詳細なアドバイスを下さいました。個別相談によって、アウトプットする力が足りないことが分かり、4月以降は過去問等で初めて見る問題に対応する力を付けることに専念しました。その結果、1次試験を突破することができました。

もちろん、筆記試験に向けた勉強だけが全てではありません。2次試験を突破するためには「総合的な人間力」が必要です。合格者説明会で、東京都教育庁人事部長の方が「平成24年度の採用試験では、組織人として働けるかどうかを一番重要視した」とおっしゃっていました。この時、改めて教員採用試験は単に筆記試験の勉強のみしていれば受かるものではないと感じました。私の場合、2次試験に向けた準備は講習会を中心に進めました。東京都では面接票と単元指導計画を予め用意しなければなりません。面接票に書いたことは面接で聞かれるので、自分の過去の経験をもとに自分の言葉で書いていかなければ聞かれたことに対して上手く答えられない」というアドバイスを先生方からいただき、まずは自身の人生を振り返ることから始めました。自分の今までの人生を振り返り、それに意味付けをし、そのことを教師としてどう生かせるのかを考え続けノートにまとめました。筆記試験の勉強だけでなく、学生のうちに様々な経験しておくことや、その経験を通して自分磨きをすることも教員採用試験を突破するためには必要です。

教員採用試験の競争相手は同じ大学生だけではありません。講師を何年も経験されている方や社会人を経て教員を目指す方など様々です。私は「この大学で一番努力し、一番勉強しないと教員採用試験には絶対に合格できない」と心に刻み込みながら大学生活を送ってきました。努力というのは教員採用試験に対してだけではなく、普段の授業、卒業論文、予備校でのアルバイトなど、学生生活全てに対してです。実際、2次の面接では「大学で何をして、それを教師としてどう活かせるのか」などを論理的に言えなければいけません。教員を目指す皆さんには、学生生活も教員採用試験の勉強も常に全力で臨んで欲しいと思います。「教員になりたい」という強い意志を持ち続けて頑張ってください。皆さんの努力が報われることを祈っています。